

特色ある公民館活動



ハンドタッチケア〈北九州市〉



スイーツデコマグネットづくり〈須恵町〉



矢部八名山登山講座〈八女市〉



シャドーボックス〈大任町〉

市町村のページ〔特集：特色ある公民館活動〕

- | | | |
|-------------------------------|------------------------|------|
| ・ まちの保健室～ハンドタッチケア折西～ | 北九州市立折尾西市民センター | ……P1 |
| ・ 学びの広場 ～「精選」と「向上」～ | 須恵町ふれあいレインボーコミュニティセンター | ……P2 |
| ・ 豊かな自然の恵みを受けながら登る「矢部八名山登山講座」 | 八女市矢部公民館 | ……P3 |
| ・ 高齢者を中心とした地域づくり | 大任町公民館 | ……P4 |
| こちら県公連 | | |
| ・ 第70回福岡県公民館大会報告 | | ……P5 |



まちの保健室～ハンドタッチケア折西～

北九州市立折尾西市民センター

【地域の概要】

北九州市八幡西区の折尾西校区は、折尾駅の西に位置し、水巻町に隣接している。駅を中心にすり鉢状になっており坂が多い。大膳自治区・折尾南自治区と昔からの新興住宅地である日吉台自治区・日吉台南自治町会の4自治会22町内会で組織され、人口11,919人、6,457世帯、高齢化率は28.9%。住宅地には公園や広場があり、自然に恵まれた地域。

【活動内容】

「誰かと対面でゆっくり話したい」「誰かに話を聞いてほしい」と願う年長者が増加している。加齢に伴い老いに関する悩みが生じる。心理的危機における孤独や孤立を防止するためにも、病院や施設とは異なる、相談しやすく落ち着いた“第3の居場所”が必要であると考えます。

本事業「まちの保健室～ハンドタッチケア折西～」は、青年から高齢者までを対象に、孤独および孤立の防止を目的として企画したものである。相談時にはアロマを用いたハンドタッチケア（肌のふれ合いを通じて「幸せホルモン」の分泌を促す技術）を取り入れ、心の安定やストレスの軽減、気持ちの明るさを引き出すことを目指している。

保健室の運営には、アロマセラピストであり、現役の看護師・助産師である3名が社会貢献として協力している。参加者は年齢や性別を問わず、来館時には元気がなかった方も、ハンドタッチを通じて相談や気持ちを吐き出し、笑顔で元気に帰っていく姿が見られる。

回を重ねるごとに関係性が深まり、参加者自身の社会的背景や心の奥にある悲しみなども語られるようになる。話を聴いてもらうことで安心感が生まれ、穏やかな気持ちで帰宅する方も多い。中には、おしゃれをしてイキイキと変化していく姿を見せる方もいて、セラピストもその様子に幸せを感じている。

生活上の困りごとなどの相談があった場合には、本人の希望を尊重したうえで、民生児童委員、町内会長、行政書士、専門機関などへ適切に繋いでいる。

【成果と課題】

アロマセラピストが看護師であることは、利用者にとって大きな安心感に繋がっている。「まちの保健室」をきっかけに市民センターを初めて訪れ、その後センター講座を受講しクラブ活動へ入会するなど、学びを通じて新たな志縁を築く機会にもなっている。「ここに来ると安心して元気になれる」との声も多く、保健室の開催日以外も来館者が増えている。

一方で本当に支援を必要としている方にどのように情報を届けていくかが課題である。広報の工夫とあわせて、日頃から来館者との雑談を大切に、その方が必要とされていることを察知できるように努力している。

今後も、利他の精神を尊重し、誰ひとり取り残すことのない社会とつながる協働的な学びの場の実現に向けて、あきらめることなく継続していく。



アロマセラピストの皆さん



ハンドタッチケアの様子

【問合せ先】 折尾西市民センター

〒807-0866 北九州市八幡西区日吉台1丁目22-20

TEL 093-601-8231 FAX 093-601-8232

学びの広場 ～「精選」と「向上」～

須恵町ふれあいレインボーコミュニティセンター

【地域の概要及び経緯】

須恵町のふれあいレインボーは、須恵第三小学校区を拠点とする地域コミュニティ活動団体であり、従来の「スクールコミュニティ」を「くらしのコミュニティ」に発展移行を進めてきました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた時期には、従来の事業の在り方や組織運営体制の見直しを行い、イベントの刷新や組織改革を加速させました。これにより、若い世代が活動の中心に加わるようになり、世代交代が進みました。学習講座である「学びの広場」は、住民の生涯学習と地域参加の入り口となっており、地域づくりの中核事業として位置付けています。コミュニティセンターが担う「人づくり」「絆づくり」「地域づくり」という3つの柱のうち、「人づくり」を担う事業として重視しています。

【活動内容】

「学びの広場」は、住民の趣味・文化・教養を高めることを目的に、ふれあいレインボーが開催している多様な学びの講座事業です。以前は、年に3期（2か月間×3回）のサイクルで実施されていましたが、令和7年度からは6か月連続開催へと改善され、より長期的・継続的に学びを深められる仕組みに変わりました。講座内容は、料理・ヨガ・健康づくり・工作など多岐にわたり、全年齢層に対応しています。また、地域住民からの要望に応じて特別講座を開設するほか、受講者が講座をきっかけに自主サークルを立ち上げるなど、学びの場が新たな地域活動の芽を生み出す事例も増えています。さらには高齢者の健康を意識した講座や、他事業と連携した学習の機会も検討されており、学びの広場は地域に根差した多機能な学習の場として進化を続けています。



【スイーツデコマグネットづくり】



【腸活スイーツづくり】

【成果と課題】

「学びの広場」は、学びを通じて人と人とがつながる場として、住民の自己啓発、自己実現と地域の活性化に寄与しています。特に6か月連続開催への見直しにより、参加者の満足度や継続率が向上し、講座を通じた交流や仲間づくりも活発になりました。また、学びの場から発展した自主活動やサークルが、地域の担い手育成になっており、こうした成果は、ふれあいレインボーが掲げる重点目標、「地域の人づくり」の具現化に繋がっています。課題としては、受講者数の増加や講師確保の問題、ニーズに応じた講座の開設などがありますが、講座内容の系統化や内容の刷新、講師陣の充実など、さらに工夫改善を図ることで、今後も地域社会を支える人材を育てる場として、「学びの広場」がさらに発展していくことが期待されます。

【問合せ先】 ふれあいレインボー事務局
〒811-2221 福岡県糟屋郡須恵町大字旅石 84 番地 4
TEL 092-936-8205 FAX 092-936-8245

豊かな自然の恵みを受けながら登る「矢部八名山登山講座」

八女市矢部公民館

【地域の概要】

八女市は福岡県の南部に位置し、面積は約 482 平方キロメートル(総面積県内 2 位)、人口は約 5 万 9 千人のまちです。

矢部地区は八女市の東部に位置し、東は大分県、南は熊本県に隣接しています。中央部には矢部川の清流が流れ、四方を峻険な山々に囲まれた山紫水明の地であり、また古い歴史の息づくところです。

【活動内容】

矢部地区にある山々の中から、八女の『八』にかけて八つの山を選び、矢部八名山としました。

【福岡県下最高峰の釈迦岳をはじめ八つの山々】→→

この八名山を 1 年かけて登るのが、「矢部八名山登山講座」です。

講座は初級者用（5 回講座）と上級者用（4 回講座）の二つに分けています。

初級：年間 6 座登山（5～12 月）

釈迦岳・三国山・猿駝山・文字岳・高取山・城山

上級：年間 5 座登山（5～11 月）

釈迦岳・御前岳・前門岳・三国山・国見山

- | | | |
|---|-----|---------------|
| ① | 釈迦岳 | (1 2 3 0 m) |
| ② | 御前岳 | (1 2 0 9 m) |
| ③ | 三国山 | (9 9 4 m) |
| ④ | 猿駝山 | (9 6 8 m) |
| ⑤ | 前門岳 | (9 2 2 m) |
| ⑥ | 文字岳 | (8 0 7 m) |
| ⑦ | 高取山 | (7 2 1 m) |
| ⑧ | 城 山 | (6 4 3 m) |

講座を始める 5 月に開講式を行い、登山時の注意点や準備品などについて学習し、その後自己紹介を兼ねて登山に対する想いを発表し合います。

最近の中高年者の登山ブームを反映して、受講者数は年々増え続け、本年度は初級に 54 名、上級に 40 名の参加がありました。

なお、講座を実施するにあたっては、行政（八女市役所矢部支所地域振興係）や林業関連企業（クリエイトやべ）の協力を得て、登山道の整備を行ったり、矢部八名山踏破記念のタオルをプレゼントしたりしています。



【釈迦岳山頂 R6.7】



【前門岳登山 R6.6】

【成果と課題】

矢部八名山に登ることで、八女東部に聳える山々を知るとともに、矢部地区の自然や歴史等も学ぶことができ、地元八女市に対する理解が深まりました。

講座生同士の情報交換により登山愛好家のネットワークが拡がり、講座生が新たな登山サークルに加入するなど、登山を通じた交流の拡大が図られました。

【問合せ先】

八女市矢部公民館

〒834-1401 八女市矢部村北矢部10528番地

TEL 0943-24-9144 FAX 0943-47-2855

高齢者を中心とした地域づくり

大任町公民館

【地域の概要及び経緯】

大任町は福岡県の北東部に位置し、東西3.9km、南北6.8km、総面積14.26km²の町です。町の中心部を南北に遠賀川水系彦山川が貫流し、町域を二分しています。

人口は約5千人で、高齢化率は37.6%（令和7年6月末現在）と、毎年高齢者人口の割合が増加傾向であり、高齢者を中心とした地域づくりはとても重要な事業の一つです。

【活動内容】

「高齢者の健康と地域住民同士のつながりを維持していくこと」、「住民が自分の人生をより良いものに、また、充実したものにしていくために、生涯を通じて学習する場を提供すること」、この2つの目的の下、各取組を行っています。

◎公民館講座「あたらしいこと、はじめてみませんか？」

講座は、行政が主導となり開催しています。教育課社会教育係から講座の募集案内を出し、その講座に地域住民の方々が応募して参加します。

現在、公民館で実施している講座は、「書道教室」と「シャドーボックス」の2つです。

◎サークル活動「サークル活動で楽しく友達づくり」

サークル活動は、参加者が主体となり、自主的に運営がなされています。

町では、3年を目途に講座からサークル活動への移行の声掛けを行っています。その際、サークル活動へ移行しても安全安心に活動できるよう、町の職員がお世話をする等、サポート体制を継続して行います。

現在、公民館で実施しているサークル活動は、「社交ダンス教室」「パソコン教室」「パッチワーク」「ユニーク体操」「野の花手描」「おどり愛好会」「絵手紙」の7つです。



【写真1 シャドーボックス】



【写真2 パソコン教室】

【成果と課題】

サークル活動への移行に向けた取組を行ってきたことで、参加者が主体となった活動が活発に行われています。

また、町の職員が活動をしっかりサポートすることで、参加者が安心して活動を楽しむことができ、職員と参加者の人間関係も良好となり、活動が継続・発展していることが考えられます。

今後は、サークル活動を高齢者だけではなく多世代交流に繋げていき、若年層のニーズを掴むことが課題です。

【問い合わせ先】 大任町教育委員会 教育課社会教育係
〒824-0512 福岡県田川郡大任町大字大行事 3067
TEL 0947-63-3110 FAX 0947-63-4356

第70回福岡県公民館大会報告

【県大会テーマ】 「公民館の未来を創る～不易と流行の視点から～」

1 概要

令和7年8月22日(金)、水都やながわ白秋ホールにおいて、第70回福岡県公民館大会を開催しました。大会には県内各地から公民館に関わる593名の方々に御参加いただきました。

本大会では、参加型の研修形態で講演を実施し、参加された皆様と共に大会テーマにある、不易と流行の視点から公民館の未来について考え、今後の取組に生かしていただくことを目指しました。

2 開会・記念式典

本大会では、県立伝習館高等学校の放送部の生徒さん11名に受付補助や司会進行をお願いしました。大変聞き取りやすいアナウンスで大会をスムーズに進行していただき、参加者からは、「高校生から元気をもらった」「素晴らしい司会で感動した」などの声が聴かれました。

大会式典では、御来賓の柳川市長 松永久様から温かい御祝辞を賜り、地域コミュニティにおける公民館の重要性と、日頃の活動に対する深い御理解と激励のお言葉をいただきました。

また、表彰式では、長年にわたり公民館活動の振興に顕著な御功績があった37名の皆様に対し、福岡県公民館連合会から表彰を行いました。受賞者の皆様のこれまでの地域における、住民同士の絆を深め学びと交流の場を育むための多大なる御尽力、御功績に対し、心から敬意を表するとともに、今後ますますの御活躍を祈念いたします。



3 講演①

「聞いてみよう！！公民館のAtoZ」

全国公民館連合会事務局次長 村上 英己 氏

全国公民館連合会事務局次長の村上英己氏による講演①「聞いてみよう！！公民館のAtoZ」は、参加者に公民館活動の意義や基本を再認識していただく機会となりました。

村上氏は、終戦直後から始まった公民館の歴史を紐解き、時代の変化に合わせた「不易と流行」の考え方を分かりやすく解説してくださいました。特に、社会教育法第23条の解釈について、現場で直面する具体的な事例を交えながら、柔軟な利用判断の目安を示していただいたことは、多くの参加者にとって大きな収穫となりました。

後半はクイズや質疑応答を交えた参加型形式で、一方的な講義ではなく、参加者が楽しみながら学べる工夫が凝らされていました。これにより、日頃抱えている疑問を解消するだけでなく、参加者同士で学びを共有する時間となりました。村上氏の解説と温かい語り口は、今後の公民館活動に多くのヒントを与えるものでした。



【講演①の様子(村上 氏)】

4 講演②

「公民館の未来～それでも大切にしたいこと～」

浜松市中央区・まちづくり推進課 野嶋 京登 氏

浜松市中央区・まちづくり推進課の野嶋京登氏による講演②「公民館の未来～それでも大切にしたいこと～」は、参加者に大きな活力を与えるものでした。

野嶋氏は、御自身の豊富な実践経験に基づき、公民館活動を「楽しく、心からワクワクするもの」に変えるためのアイデアを多数紹介してくださいました。「スマホより楽しい」を目指すという思いの下、若者や子どもを巻き込む具体的な事例は、参加者の心を捉え、今後の活動の大きなヒントとなりました。

講演は、ユーモアと熱意に溢れた語り口で進められ、参加者からは、「元気とパワーをもらった」「自分もやってみたい」といった声が多数寄せられ、公民館活動の未来に対する明るい希望を抱かせる内容でした。公民館活動の可能性を広げ、新たな一歩を踏み出す勇気を与えてくれる、非常に実りある時間となりました。



【講演②の様子(野嶋 氏)】

5 今大会の成果と次年度に向けて

令和7年度福岡県公民館大会は、従来の講義型の形式から、参加型の研修になるよう工夫をして実施しました。講演にクイズや質問コーナーなどを交え、参加者が主体的に関わることで、これまでにない学びと活気が生まれました。特に、講演①の村上英己氏による公民館の歴史と実務に関する解説、そして講演②の野嶋京登氏による実践に基づいた熱意ある語りは、参加者の活動意欲を大きく高めました。

また、県立伝習館高校の生徒 11 名が運営に携わったことも、大きな成果です。若者が生き生きと活動する姿は、参加者に年代を超えた連携の重要性を改めて示す機会となりました。

次年度に向けては、今回の成功をさらに発展させることが重要です。参加された皆様からいただいたアンケートの結果等も参考にさせていただきながら、参加者一人ひとりがより深い学びを得られる大会を目指します。

本大会を開催するに当たっては、特に、開催地の柳川市をはじめ、開催地区である南筑後地区の皆様にご尽力いただきました。心より感謝いたします。

来年度は、筑豊地区での開催を予定しております。さらに実り多き大会となるよう改善に努めてまいりますので、今後とも公民館活動の充実・振興のために御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

